



共に育つ射和っ子

学校だより 特別号
発行 松阪市立射和小学校
令和7年10月1日
児童数 156人

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組について

今年度の4月17日に行われた全国学力・学習状況調査の結果が7月末に公表されました。今年度は、国語、算数だけでなく理科も行われました。平均正答率については下表のとおりです。

	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本校	8.9問/14問	64%	9.1問/16問	57%	8.2問/17問	48%
三重県	9.3問/14問	66%	9.1問/16問	57%	9.5問/17問	56%
全国	9.4問/14問	66.8%	9.3問/16問	58%	9.7問/17問	57.1%

各教科の結果と児童質問紙結果を分析し、本校の取り組むべき課題を整理しました。その一部を紹介いたします。これらの分析結果をもとに、確かな学力の定着をめざした取組を進めるとともに、一人ひとりの子どもたちに寄り添いながら教育活動を進めてまいりたいと思います。

1 教科に関する調査の結果および分析

(1) 国語

【本校の強み】

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題では、本校の正答率は62.5%と全国の53.3%より9.2ポイント高くなっています。

【本校の弱み】

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題において、本校の正答率は50.0%と全国の71.8%より21.8ポイント低くなっています。自分の目的や意図などを明確にして聞くことに課題があると考えられます。インタビューをする際には、自分の質問に対する相手の答えを受け止め、その答えに応じて即興的に反応できるようにすることが求められます。今後は、インタビューする場面を設定し、インタビューをする前に、自分が知りたいことや疑問に思っていることを整理したり、相手の答えを予想したりするなどして、準備をする活動を取り入れていきます。

(2) 算数

【本校の強み】

基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、本校の正答率は50.0%と全国の37.0%より13.0ポイント高くなっています。五角形の面積を求めるために、既習の求積可能な二つの図形を見い出すとともに、面積を求めるために必要な情報を自ら選び出し、二つの図形のそれぞれの面積の求め方を筋道を立てて考察し、式や言葉を用いて記述する力がついていると考えます。昨年度の分析結果をもとに、式や言葉を使って説明する活動を取り入れてきた成果であると考えます。

【本校の弱み】

小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて、共通する単位を捉えることができるか

どうかをみる問題において、本校の正答率は62.5%と全国の74.1%より11.6ポイント低くなっています。0.4は0.01の40個分、0.05は0.01の5個分とみることで、0.01を共通する単位として捉えることに課題があると考えます。小数の仕組みについて、視覚的に理解できるようにする等、取組を進めます。

※右図：課題のあった問題

(3) 理科

【本校の強み】

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題において、本校の正答率は83.3%と全国の79.5%より3.8ポイント高くなっています。

【本校の弱み】

顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題において、本校の正答率は12.5%と全国の45.6%より33.1ポイント低くなっています。顕微鏡を操作して適切な像にするためにピントを合わせる技能を身につけることに課題があると考えられます。また、児童質問紙調査の理科における「職業への興味・関心」や「主体性」についての肯定的回答の割合が低くなっています。今後は、日常的に観察する機会を増やすことができるよう教室にも顕微鏡コーナーを設置するなどして、理科に対する興味・関心も高めるための工夫をしていく必要があります。

3

ひろとさんは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



0.4は0.1の4個分、0.3は0.1の3個分です。
0.1を①として下の図のように表します。

0.4が4個 0.3が3個



$0.4 + 0.3$ の計算は、0.1をもとにすると、 $4 + 3$ を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、0.1をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4は②の40個分、0.05は②の5個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、②をもとにすると、 $40 + 5$ を使って考えることができます。

上の②にはすべて同じ数が入ります。②に入る数を書きましょう。

2 児童質問紙に関する調査の結果および分析

○「自分には、よいところがあると思いますか」

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」

→肯定的な回答の割合が100%となり、家庭や地域で大切にされていることがこの結果からも推察されます。

○「友達関係に満足していますか」

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」

→肯定的な回答の割合が100%を占めています。「学校に行くのは楽しいと思いますか」(92.6%)が100%になるよう、引き続き、子どもたちが安心できる学校、学級づくりに努めていきます。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

→肯定的な回答の割合が100%を占めています。昨年度の学力調査の結果を受け、授業や学級活動で、自分の考えを伝え合う活動を取り入れてきました。少しずつ取組の成果が表れていると考えます。

●「読書が好きですか」

→肯定的な回答の割合が、全国よりも14.2ポイント低くなっています。本校の課題として捉え、引き続き取り組んでいく必要があります。

●「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

→肯定的な回答の割合が、全国よりも8.3ポイント低くなっています。教師主導で進める学習ではなく、子どもたちが自ら問いを立て、探究的に学習を進められるよう、さらなる授業改善が必要です。